

1. 自己評価及び外部評価結果

平成26年8月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4677100150号
法人名	社会福祉法人 以和貴会
事業所名	老人グループホーム さくら通
所在地	鹿児島県鹿屋市串良町下小原3103-2 (電話) 0994-62-8887
自己評価作成日	平成26年6月16日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年7月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

遠くに山々を望む緑豊かな環境の地に、法人の福祉施設が存在し、その一角に当ホームはあります。
建物内は、天井が高く明るく、ホール内からは芝生や庭木が眺められ、苑庭散歩も自由に行えます。
日常の生活では、施設間の交流を始め、できるだけ身体を動かす活動を取り入れ、季節の催しや誕生会、地域の行事等に参加し、入居者の皆様が楽しく健康で過ごせるよう取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・鹿屋市郊外、自然環境豊かな閑静な住宅地に位置するグループホームである。法人の介護事業所(特別養護老人ホーム・デイサービス・居宅介護支援事業所・生活支援ハウス・介護付有料老人ホーム)があり、入所者は普段から日常的に交流活動を積極的に実践し、地域の人々や知人・友人との関係継続を図っている。
- ・管理者や職員は、利用者にとり、ホームが安心して信頼のおける暮らしの空間であることや、プライベートな時間を大切にでき、自分らしい生活の中で、地域との交流、ふれあいを重視し、本人の主体性を大切に生活の実現に向け、常に理念に沿い立ち戻る取り組みをしている。
- ・運営者や管理者は、職員の質の確保、向上に向けた職員教育や育成が必要であることをよく理解しており、年2回人事考課を実施し、職員を面談して個人の目標の達成に向けて内部研修会に加え、外部の新しい情報やケア技術を事業所内に取り入れ自己研鑽し、さらにステップアップすべく資格取得がしやすいよう勤務体系や職場環境を整備している。
- ・利用者、家族とは早い段階から重度化した場合や終末期の意思確認を踏まえ、管理者や職員、医師、関係機関と話し合い、事業所も対応し得る最大限のケアについて説明するとともに、方針を共有し連携を図りながらチーム支援に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	できる限りご本人の意向に沿ったお世話と地域とのふれあいを目指した独自の理念を作り、玄関や職員の目につく場所に明示し実践につなげている。	理念は、玄関や共有スペースに掲示しており、管理者や職員は理念を念頭にスタッフ帳で共有し、利用者が地域の方々との関係性が途切れることがないよう交流など勧め、本人のプライベートな時間も大切に支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板を通して地域行事等の情報を得て参加・協力している。また、施設実習生や職場体験学習生等を積極的に受け入れ、隣接する法人の施設と連携を図り地域交流に努めている。	自治会に加入し、ホーム便りを毎月回覧してもらったり、避難訓練にも協力してもらえる関係を大切に近所付き合いしている。また、回覧板を通じて住民の方などから介護の相談など受けたり、地域の行事に参加、ボランティアの受入れ、中学生の職場体験学習などや隣接したホームにおられる知人や来訪して下さる友人との関係継続のため、地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	高齢者が地域で安心して暮らせるよう相談や情報提供を行い、施設見学や体験学習を随時受け入れ、認知症の方への接し方や理解が深まるよう支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議に於いて、ホームの活動状況、入居者状況、事故・ヒヤリハット報告、評価への取り組み状況等の報告を行い、意見をもとにサービスの質向上に活かせるように取り組んでいる。	家族代表、利用者代表、民生委員、消防隊長、行政の参加があり、2ヶ月に1回開催している。行政の都合により、現在は有料老人ホームと合同で開催している。会議では、事業報告、ヒヤリハット事例・事故報告、入所者の近況、外部評価の報告があり、意見交換してサービスの質の向上に繋げている。また、年1回は避難訓練と同時開催し関係者間の協力体制を確認している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から地域包括支援センターや市の担当者に質問、相談、助言を貰い、報告するように努めている。	市担当者とは、日頃から電話や面談にて、ホームの近況や相談ごとなどの理解や協力関係を築くよう取り組んでいる。福祉事務所の職員には、事業所の方から積極的に報告や連絡をするよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会会議に於いて、身体拘束の弊害についてマニュアルに基づき理解を深めている。毎月、委員により拘束状況を確認している。日中は、玄関の施錠をせず、自由に庭の散歩が行えるようにしている。	身体拘束廃止委員会があり、定期的な研修会や勉強会の実施や職員会議などで、個別ケースのケアについて十分な検討と話し合いを重ね検証しながら、集団生活の安全な暮らしの実現に向けて拘束をせず自由な暮らしを支援している。日中は玄関は施錠せず、職員が付き添い庭に出て散歩を楽しんでもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止啓発学習会に参加し、全職員へ報告している。高齢者が、虐待を受け、命にかかわる時には、発見者は速やかに報告する義務があることを共通認識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県社協や介護福祉士会、社会福祉士会、地域包括支援センター等が開催する研修に参加し、理解が深められるよう努めている。個々の必要性については、関係者と話し合い活用するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約又は改定等の際は、利用者や家族へ内容を解りやすく丁寧に説明し、不安や疑問点はないか尋ね、十分に理解、納得が得られた上で同意してもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。相談・苦情受付担当者や第三者委員を選任し、重要事項説明書やホーム内に明示している。運営推進会議で出された意見や入居者・家族からの意向を確認し運営に反映させている。	利用者には、能力に応じて直接意見や要望を聞く機会を持ち、家族にも直接対話している。法人全体で、家族アンケートを実施しており、改善の経過や結果は、職員会議や運営推進会議などで報告などしている。出された意見は、サービスの質の確保・向上に繋いでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案を聞く機会として、毎月の処遇会議や職員会議、毎日のミーティング等がある。出された意見や提案は、管理者定例会で報告し、改善に取り組んでいる。	管理者は、職員の意見や提案を聞く機会をミーティングなどで設け、管理者定例会で報告して改善に取り組んでいる。また、年2回の人事考課を行い、個人面談を実施し、意見交換したり資格取得にも積極的に取り組み職員が向上心を持って働けるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力や段階に応じた研修を計画し、資格取得にも積極的に支援し、スキルアップが図れやりがいを持って働けるように努めている。介護休暇や産前産後・育児休暇等を利用し職場復帰できる環境にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の年間研修計画を作成し、段階に応じた研修に参加している。法人による新人研修や介護未経験の職員は、施設実習を行っている。資格取得にも積極的に支援している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大隅地区介護事業所連絡協議会や日本認知症グループホーム協議会鹿児島県支部に入会している。研修に参加し、他のグループホームと相互交流に努め情報交換を行いサービス向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学してもらい、入居は本人の意思決定を尊重している。担当ケアマネジャーより情報収集し、入居後は見守りや傾聴に努め、こまめに本人の気持ちに寄り添い、安心して生活が送れるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設見学してもらい、パンフレットや資料による十分な説明を心がけ、要望や困っていること、不安等はないか尋ね家族の気持ちに添えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族等が、どんな生活を望んでいるかを確認し、それぞれの意向に沿った支援が受けられるように努める。必要時は、他サービスの紹介や調整も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	園芸や日常の家事や季節の行事等利用者と職員は一緒に活動している。一人一人の生活歴や得意とする事（園芸、昔話、季節行事）を教わったり、励まされたりの支えあう関係が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは随時、面会、電話、通信等で情報交換を行っている。誕生会には、家族の出席をお願いし、一緒に祝っている。利用者個々の問題解決には、家族の意見も取り入れるようにして絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も馴染みの関係が継続できるように、家族からも協力を得ながら、行きつけの美容院、病院、外泊、外出、地域行事、隣接する福祉施設の友人・知人との面会等の支援を行っている。	昔から利用している美容院に行き続けている利用者や、家族と墓参りや外出、外泊などする利用者もあり、一人ひとりの生活習慣を大切にしている。また、老人ホームに暮らす知人に会いに行ったり、地域や施設の行事に参加して継続した交流ができるよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	あらゆる場面で座席等の位置に配慮し、利用者同士がスムーズに関われ孤立しないように支援している。孤立しがちな利用者には、職員が関わり交流支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご縁を大切にし、必要に応じて本人・家族の相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活状況や会話の中から本人の思いや希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、家族からの情報や職員の気付きも含めて検討している。	本人の思いについてはスタッフ帳で職員は情報を共有するとともに、家族との絆を大切にしてもらうために、病院受診などは家族にお願いしているが、職員も送迎や付き添いなど協力している。本人が意思表示困難な方には、言葉や行動、家族に代弁してもらうなどで、真意を推し測っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申込書や居宅介護支援事業所等からの情報提供、本人家族からの聞き取りにより、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、個々に日常生活状況（心身の状態を含む）を記録し、スタッフ帳に、受診結果や状態変化等を記し職員間で共有している。月1回の処遇会議で、評価を行い現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からは、面会や担当者会議時、職員からは、毎月の処遇会議時、主治医からは、受診時に意見や指示を貰い、モニタリングを実施している。個々の関係者の意見やアイデアを反映した計画作成を心がけている。	他職種全員で、アセスメントし情報収集する重度認知症のケースもあつたり、モニタリングを定期的を実施、利用者ごとに担当割して情報の共有化を図っている。担当者会議には、家族も必ず参加して意見や要望など聞き取り、プランの見直しや改善、目標の方向性などチームで話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、日常生活状況記録に、バイタル・食事量・水分量・排泄・入浴・生活状況を個別に記入し、毎日のミーティングやスタッフ帳により、全職員が情報の共有に努め、実践や介護計画の見直しに活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況、要望に適切に対応できるようにスタッフ帳を活用したり、毎日のミーティングで話し合い柔軟に調整や支援を行っている。（自宅訪問・外泊・理美容院・見学・買い物・受診・相談援助など）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや体験学習生、施設実習生、慰問、隣接する福祉施設、自治会に入会している地域、民生委員、消防署、市職員、かかりつけ医、福祉事務所等と協同し支えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医を確認し、定期随時に家族や職員が付き添い受診している。利用者の日頃の健康状態や食事量、体重の変化などを報告し診断結果を記し関係者の共有を図っている。	訪問診療は隔週1回、外来受診は職員が付き添ったり家族同伴で実施、訪問歯科との連携もしている。また、夜間帯の急変時や体調不良時などは、夜間救急センターに対応してもらっている。今年5月から看護師が訪問して健康状態を把握・管理するなど支援体制がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常のかかわりの中でとらえた情報や気づきを、特定施設の看護師へ伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関へは、情報提供票を作成し本人に関する情報を提供している。入院時は、本人が安心して治療に専念できるように面会を心掛け、病院関係者より経過を確認している。退院時は、看護サマリーをお願いし、情報の共有に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、本人・家族に重度化した場合の方針を説明し、指針に対する同意書を貰っている。状態変化時は、医師も交えて治療方針を決定し、全職員で共有を図るようにしている。	利用者、家族には、入所時資料をもとに説明をおこない、その後段階に応じてホームで対応し得るケアについて説明をおこなっている。重度化し、看取りに至る経過の中で、節目節目に本人や家族の意向を踏まえ、主治医、職員ほか関係者が連携をとり、安心して納得した最期が迎えられするように、随時意思を確認しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームでの急変や事故発生時は、マニュアルに沿っての対応を心がけている。全ての職員が、救命講習会に参加し、応急手当や対応の知識が身に付けられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	平成22年2月スプリンクラー設置。年2回（昼間・夜間想定）、消防署立合いの避難訓練を行っている。運営推進会議委員に、地域の消防隊長が加わり、隣接する施設とも協力体制を築いている。	避難訓練は、年2回、昼・夜想定で実施、運営推進会議時にも夜間想定訓練を実施している。避難完了は「確認済」の名札に変えている。法人はもちろんのこと地域の協力体制はあるが、住宅が離れているので、管理者は、火災発生の場合を決めておくなど今後検討が必要と考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員からは入職時に、個人情報保護に関する誓約書を貰っている。声かけや整容・入浴介助・排泄支援・食事介助等必要な時にさりげなく寄り添って行うようにする。	一人ひとりの人格と尊厳をもって、言葉や態度、ケアのしかたなどで本人を傷つけたり、恥ずかしい思いをすることがないように、援助が必要な時も、本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけたり、プライバシーに配慮したケアに努めている。特に、身体的直接介護は勉強会などで再確認するなど徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活状況の把握に努め、個々に合ったコミュニケーションを心がけることにより、本人の思いや希望が引き出せ自己決定しやすいように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、起床や就寝時間、入浴やレクリエーションなど、利用者個々の生活リズムに留意しながら希望や状況に応じて柔軟に支援している。職員間の協調性を向上させ支援の質を高めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	希望時は、家族や職員が付き添い好みの衣類や日用品が買え、行きつけの理美容院が利用できるように支援している。また、好みのものを身につけられるように家族へ相談し配慮している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の栄養士が献立作成（日曜日は職員、利用者で作成）している。職員は食材の下ごしらえ、後片づけ、食器洗いなどできる方と行い、同じテーブルを囲んでサポートしながら楽しく食事をしていく。	通常は、法人の管理栄養士が献立を作成し、職員が調理している。日曜日の夕食や誕生会などの行事食は、利用者、職員で話し合って献立を決める。能力に応じて食材の下ごしらえ、テーブルやお盆を拭くなど手伝いもしている。また、年2回位は、バイキングなど外食もしている。日頃は近くのストアでアイスクリームや回転焼きなど購入し職員も一緒に楽しむこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人栄養士の作成した献立を中心に食事提供し、嗜好や嚥下状態に合わせた別メニューや食事形態を心がけ栄養確保に努めている。水分摂取も好みや嚥下状態に合わせ支援し記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々のレベルにあわせた口腔ケア（歯ブラシ・コップ・ハミングッド・舌ブラシ等使用）を行っている。夜間は洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日、排泄状況を記録し、個々のパターンに合わせて介助している。排泄意のない方へもトイレでの排泄を心がけている。失禁の原因等職員で話し合い、共有し失禁改善に努めている。	できるだけトイレで排泄ができるよう取り組んでおり、排泄の有無がわからない方には時間ごとにトイレ誘導し、パット交換している。自分で排泄しようと動こうとする利用者には、転倒防止などのため、センサーマットを購入いただき排泄の自立を支援している。また、排便コントロールが必要な方には、水分補給、内服薬コントロール、腹部マッサージ、散歩などの適度な運動など提供している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は食物繊維の多いメニューとなっており、水分も好みの飲み物を定時随時準備し摂取量の確保に努めている。レクリエーションや散歩等を行い適度な運動も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的には一日おきの入浴とし、希望者は毎日でも入浴できる。入浴拒否者はタイミングを見て声かけし対応している。ゆず湯や入浴剤を活用し、職員と会話を楽しみながら個々に応じて支援している。	利用者一人ひとりが自分のペースでゆっくりと入浴が楽しめるよう配慮し、入浴支援をおこなっている。浴槽の出入りが困難な方が増え、職員は利用者が満足いくまでかけ湯をして利用者に喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、適度な運動やレクリエーションで生活リズムづくりに努め、昼寝習慣のある方、傾眠傾向にある方、体調不良の方等は、安静や習慣を大切に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に薬の明細書を綴り、目的・副作用・用法・用量について理解できるようにしている。薬は、職員が管理し個々に合わせて介助、服薬チェックを行い症状変化等に注意し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は、利用者と一緒に園芸、ゲーム、踊り、お茶、食事の準備、洗濯干しやたたみ等を行い利用者一人一人の役割や楽しみが増えるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の買い物や散歩・隣接する施設慰問や面会は個々の希望に沿って職員と一緒に出かけている。本人希望の外泊や行事、地域の運動会等は関係者へ相談し支援している。	天候や本人の体調にも寄るが、ホームの庭先を散歩したり、隣接の老人ホームやデイサービスに出かけたりして、地域や知人などと交流を積極的におこなっている。初詣は定例化されており、歩行困難な方も車いすなど利用し、花見や散策、外食などの外出も年2回は行っている。また、家族との個別の外出も勧め一人ひとりの外出の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	職員は、本人がお金を所持し使う事の大切さを理解している。本人希望時は、小遣いを準備して一緒に買い物に付き添っている。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	本人希望時は、いつでも電話できるように支援している。手紙の代筆や代読支援も行っている。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	天井の高い広々とした明るいホールに、対面式の台所やソファの空間・和室が設けてあり苑庭が眺められ休息やテレビ視聴が楽しめるようになっている。大型のプラズマクラスターや空調等により室内の衛生、温度、湿度調整を心がけている。	玄関は、二重に扉があり施錠せず、入ると、スタッフコーナーのカウンターの上に季節の花が活けてある。食堂兼リビングの天井は高く、大きなガラスのはき出しのサッシと一段上がった畳のスペースがあり、ソファで思い思いにくつろぐ利用者や食卓で調理の下ごしらえや準備、洗濯物をたたむ手伝いをする利用者もいる。壁には利用者の作品が掲示してある。台所から共有スペースが一望できるので、互いの様子や話し声が聞こえ生活感あふれる空間になっている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	広々としたホールに、和室や食堂テーブル・ソファが配置され、気の合う同士で座りテレビ視聴・レクリエーション・体操・会話を楽しんだり、一人和室で横になったりできるように、職員が見守り工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使用していた日用品や家具、ラジカセ等馴染みのものを持って来ていただき、居心地良く安心して生活して頂けるように工夫している。</p>	<p>ベッド、洗面台、エアコン、寒暖計、テーブル（椅子）、ナースコール、クローゼットが設置され、表札は手作りでそれぞれ個性が感じられる。扉横には、避難確認のための名札が貼ってある。家族写真やラジオ、使い慣れた調度品を持ち込み、それぞれの利用者の居心地のよさに配慮している。必要に応じ畳部屋にアレンジするなどし、身体機能を活かした安全な環境づくりを工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内はバリアフリーで、要所所に手すりが設置され段差のない造りとなっている。居室は個々の状態に合わせて、ベッドや畳の部屋とし、安全に自立した生活が送れるように工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない